

1万人超の従業員が快適にBoxを利用できる環境を実現 Box利用時のネットワークトラフィックを最適化する A10のクラウドプロキシソリューション

顧客名:

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

業種:

コンピュータ・ネットワークシステムの
コンサルティング・販売・保守など

A10のソリューション:

Thunderシリーズ

課題:

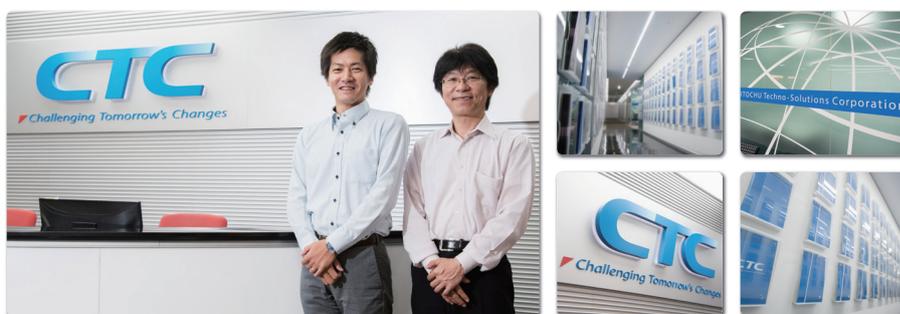
- Boxの全社導入によりセッション数が急増、プロキシのパフォーマンス低下を危惧
- プロキシ増設ではコストが膨大。低コストかつ拡張性のある新しい環境が必要に

導入効果:

- プロキシ増設と比較し低コストでBoxの快適利用を実現
- 高い処理能力を活かして同一筐体を社内ネットワークやIoTネットワークの負荷分散にも活用

“A10のクラウドプロキシのおかげで、SaaSアプリケーションの負荷を気にすることなく、新しい取り組みへのチャレンジも容易になりました。”

技術戦略グループ 情報システム室 情報システム部
部長代行 永田 孝哉氏



確かな技術力と充実したサポート体制で、総合的なITサービスを提供する伊藤忠テクノソリューションズ株式会社は、全社的なコンテンツ管理およびコラボレーションの基盤としてクラウドストレージのBoxを利用しています。このBoxを中心としたSaaSアプリケーションを活用する際に増大するトラフィックの負荷を軽減するために、A10ネットワークス(以下、A10)が提供するアプリケーションサービスゲートウェイThunderシリーズのクラウドプロキシが活用されています。

課題: BOX展開によるプロキシサーバーの負荷急増を懸念

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社は、「Challenging Tomorrow's Changes」を企業スローガンに据え、ITライフサイクルをトータルにサポートできる総合力を兼ね備えているインテグレーターです。2017年4月からは大幅な組織改編を行い、技術面での強化を図るべく「技術戦略グループ」を新設。最先端の技術を自ら検証し、実践的なビジネスの目線で技術の目利きを行うことで、ユーザー企業に最適なソリューションを展開しています。

同社では、以前から利用してきたファイルサーバーの老朽化に伴い、情報共有のための基盤刷新が求められていました。「老朽化はもちろんですが、無尽蔵に増えていくディスク容量への対策や社外とのコラボレーションに関して課題を抱えていました。使い勝手の面も今の時代に合ったものとは言えず、新しい時代のための環境が求められました」と語るのは技術戦略グループ 情報システム室 情報システム部 部長代行 永田 孝哉氏です。そこで、今後ユーザー企業へクラウド時代のコンテンツ管理およびコラボレーションを提案していくことも視野に入れ、クラウドストレージBoxによる新しい環境構築を決定しました。

その際に大きな課題となったのが、従来から利用してきたプロキシサーバーの負荷の増大でした。「これまで4台のプロキシサーバーで社内のセッションを処理してきましたが、SaaSアプリケーションであるBoxの運用が始まると、インターネットアクセスが急増することは間違いありません。事前のシミュレーションでは、セッション数が1.5倍に増えることが想定されました」と同部 ネットワークシステム課 実松 智洋氏は語ります。

検証: クラウドサービスでの豊富な実績と高いコストパフォーマンスが決め手に

まず同社は、既存プロキシの負荷を軽減する解決策として、プロキシの増設を検討しました。「冗長化も含めると、最低でも2台のプロキシを追加する必要がありましたが、その場合、ライセンス料が大きな負担となりました」と永田氏。そこで新たに候補に挙がったのが特定のトラフィックを分離する



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
技術戦略グループ
情報システム室 情報システム部
部長代行
永田 孝哉氏



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
技術戦略グループ
情報システム室 情報システム部
ネットワークシステム課
実松 智洋氏

ことでネットワーク負荷対策を行えるクラウドプロキシソリューションでした。「Office 365などのSaaSアプリケーションの台頭に合わせて登場したクラウドプロキシを導入することで、コスト的にも負担なく課題を解決できることが分かりました。」

そのクラウドプロキシソリューションの中で同社が注目したのが、A10の提供するアプリケーションサービスゲートウェイThunderシリーズでした。「既に社内での評判も高く、他ベンダーのソリューションと比べOffice 365を中心とした社外の事例も豊富だったのがA10でした」とその実績を高く評価しました。

また、一部の部署で検証が始まり、Box同様に全社利用していくクラウドサービスの負荷軽減も検討の際に見据えていました。「BoxやOffice 365も含め、今後我々が取り扱っているSaaSアプリケーションを利用して新しい環境を構築する上では、クラウドプロキシが必要不可欠だと考えました。そこで、将来他のクラウドサービスを利用することも想定して検証を行いました」と実松氏。

結果、プロキシの増設と比較的低コストで条件に合う環境を構築できることから、Thunderシリーズによるクラウドプロキシソリューションの採用を決定しました。

ソリューション：パフォーマンスに加えて、追加ライセンス不要な豊富な機能と拡張性を特徴に持つThunderシリーズ

アプリケーションサービスゲートウェイThunderシリーズは、独自OS「ACOS* Harmonyプラットフォーム」の持つ共有メモリアーキテクチャーにより、コンパクトな筐体で高いパフォーマンスを発揮します。その高い性能を持って、クラウドプロキシソリューションだけではなく、アプリケーション配信やセキュリティに必要な様々な機能を、追加ライセンス不要で使用することができます。

*Advanced Core Operating System

Thunderシリーズの多彩な機能の一つであるクラウドプロキシソリューションは、Thunderシリーズをプロキシの前段に導入するだけで、従来の通信はプロキシに、SaaSアプリケーションのドメインへの通信は直接インターネットへ振り分けるといった、宛先ドメイン名に従ったトラフィックの振り分けを行うことができます。さらに、ACOS Harmonyプラットフォームのオープンなプログラミング機能による拡張性の高さを活かし、SaaSアプリケーション独自の設定作業を自動化することもできます。

導入効果：1万人超の快適なBox利用を支え、余剰性能で社内ネットワークやIoTネットワークの負荷分散も実現

現在はアクティブ・スタンバイ構成で冗長化された2台のThunderが4台のプロキシサーバーの前段で動作し、Boxのトラフィックに対するクラウドプロキシとして機能しています。全体で最大秒間4万セッション程度のトラフィックを処理し、グループ会社も含めて1万人超の快適なBoxによるコンテンツ管理とコラボレーションを実現しています。「運用を開始して、現時点ではCPU使用率がピークでも20%を越えていません。セッション数的にもおそらく10%程度が現状で、パフォーマンスに充分ゆとりのある環境で運用できています」と実松氏は評価します。

同社は、性能的に十分な余裕があるThunderを有効活用するために、4台のプロキシに対する負荷分散も今回導入したThunderで行っています。さらに、入退室管理システムで稼働している100カ所以上のアクセスポイントで構成されたIoTネットワークのトラフィック最適化も同じThunderが行っています。「自社の『働き方変革』の推進に伴い長時間労働の是正を図るべく、従業員の入退室管理を行う仕組みを構築しています。Thunderがあるおかげで、負荷を気にすることなく、新たな仕組みへの実装も容易になりました」と永田氏。既存のプロキシサーバーの負荷を増やすことなく、SaaSアプリケーションと

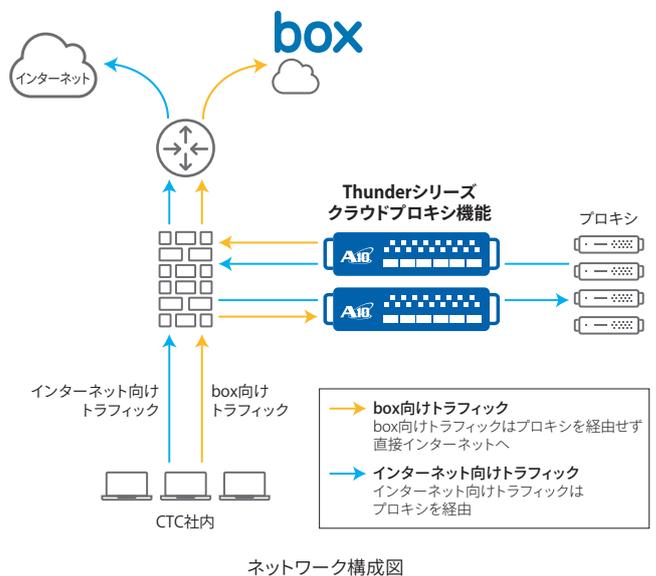
いう新たな仕組みを展開できたことはもちろんですが、今後同じような新たな仕組みに取り組むときにも、容易にシステムを拡張ができるようになるのは安心できると永田氏は力説します。

実は本稼働に至るまでの運用検証中、まれにしか発現しない事象が発覚し、その改善に時間を費やしたこともあったと振り返ります。「問題の事象を再現できず困っていましたが、A10社内のラボ環境で再現方法を発見いただいたことで、課題に対処できました。真摯かつ協力的にサポートいただき、とても感謝しています」と永田氏。「本稼働してからは、驚くほどトラブルが起こっていない状況」と評価します。なお、使い勝手の面では、稼働状況をGUIから容易に確認できる点や、CLIでシンプルに設定できる点などが受け入れられています。

今後の展開：新たなSaaSアプリケーションでの活用とSSLの可視化に期待

同社は前述のとおり、Box同様に全社利用していく他のクラウドサービスでも、Thunderのクラウドプロキシソリューションを活用していきたいと語ります。

Thunderシリーズの他の活用方法として、SSL通信の可視化については興味を持っていると実松氏。「どんなトラフィックがあるのかという解析は、セキュリティの観点でも重要なポイント。当初からSSLの可視化が可能だという点も選定の理由に挙げたほど。今後は必要に応じて検討していきたい」と語りました。



A10 Networks / A10 ネットワークス株式会社について

A10 Networks (NYSE: ATEN) はセキュアアプリケーションサービスにおけるリーディングカンパニーとして、高性能なアプリケーションネットワークソリューション群を提供しています。お客様のデータセンターにおいて、アプリケーションとネットワークを高速化し可用性と安全性を確保しています。A10 Networksは2004年に設立されました。米国カリフォルニア州サンノゼに本拠地を置き、世界各国の拠点からお客様をサポートしています。

A10 ネットワークス株式会社はA10 Networksの日本子会社であり、お客様の意見や要望を積極的に取り入れ、革新的なアプリケーションネットワークソリューションをご提供することを使命としています。

詳しくはホームページをご覧ください。

URL : <http://www.a10networks.co.jp/>

Facebook : <http://www.facebook.com/A10networksjapan>

(記載された内容は2017年10月時点の情報です。)

A10ネットワークス株式会社

〒106-0032
東京都港区六本木三丁目2番1号
住友不動産六本木グランドタワー33階
TEL : 03-4520-5700
FAX : 03-4520-5701
jin@a10networks.com
www.a10networks.co.jp

海外拠点

北米 (A10 Networks本社)

sales@a10networks.com

ヨーロッパ

emea_sales@a10networks.com

南米

latam_sales@a10networks.com

中国

china_sales@a10networks.com

香港

HongKong@a10networks.com

台湾

taiwan@a10networks.com

韓国

korea@a10networks.com

南アジア

SouthAsia@a10networks.com

オーストラリア/ニュージーランド

anz_sales@a10networks.com

お客様のビジネスを強化するA10のアプリケーションサービスゲートウェイ、Thunderの詳細は、A10ネットワークスのWebサイトwww.a10networks.co.jpをご覧ください。

©2017 A10 Networks, Inc. All rights reserved. A10 Networks, A10 Networksロゴ、ACOS、およびThunderは米国およびその他の各国におけるA10 Networks, Inc.の商標または登録商標です。その他の全ての商品およびサービスの名称はそれら各社の商標です。その他の商標はそれぞれの所有者の資産です。A10 Networksは本書の誤りに関して責任を負いません。A10 Networksは、予告なく本書を変更、修正、譲渡、および改訂する権利を留保します。製品の仕様や機能は、変更する場合がございますので、ご注意ください。